

1. 開催年月日 平成 27 年 1 月 23 日 (金) 13 時 30 分～15 時 00 分
2. 開催場所 岐阜県可児市広見七丁目 90 番地
株式会社ケーブルテレビ可児 会議室
3. 出席委員数 5 名 (欠席 3 名)
4. 事業者側出席者数 3 名
5. 議 題 1. 番組試聴および審議
2. 通常番組について

6. 審議内容

1. 番組試聴および審議

次の番組を試聴し、審議した。

1 月 10 日 (土) 8:00～8:30

「Hora de Choro」

パーソナリティ：フォンフォン、エミリア

- ・放送時間帯が変わってからは聴いていないが、私の好きな番組のひとつ。洒落た、大人の会話というやりとりに、月曜から金曜のカラーとは違って注目していた。ブラジルのことや、曲や演奏者のエピソードをよく紹介してくれていて、とても興味深かった。ただし今回は、トークの内容が時間稼ぎのように感じられて、いままでとちょっと違う印象を持った。軽妙なやりとりのテンポは魅力的。
- ・今回はたまたま中身がない話にもかかわらず、二人の声の通りもいいし、安心させられる口調で話していて、心地よく聞けた。不快に思う人はあまりいないのでは。30 分ではなくもっと拡大してもよいと思った。
- ・テンポが良く、BGMと話のテンポもとても合っていて感心した。よく選んだなど。パーソナリティはブラジルにずっと住んでいたということで、そのリズムが体についているのかなと思いながら聞いた。話の内容もあっている。朝という感じがとてもいい。せっかくなので音楽の解説がもうちょっと欲しいと思った。
- ・パーソナリティが 1 人で語りかけてくれているのは、自分に語りかけていると感じるので一生懸命聞こうとするが、2・3 人の話を聞いているのはどのような態度で聞いたらいいのだろうか。多くの番組があるが、語りかけるものばかりでも困るし、話を横で聞いているだけでも困るし、色んなトーンやバランスがあってもいい。もっと語りかけるタイプの番組があってもいいと思う。
- ・2 年ほど前よりもスキルが上がって、どこへ出してもいいように思う。将来インターネットで公開した場合を考えると、中傷や非難も様々になると思うが、振り回されず、らのポリシーを持って対応して欲しい。

- ・聞きやすいが、ポルトガル語はなじみのない言語で、固有名詞がわかりにくいいため流ちょうにアーティスト名を紹介されると聴き取れない。ポルトガル語を聞き慣れないリスナーも意識して言い方を変えてもらえるとよい。何ていったのかなと思ってしまう。

1月10日(土) 8:30~9:00

「♪BLUE RHYTHM♪」

パーソナリティ：シロー、NORI、Honey Shee

- ・ジャズが好きな人にはとてもいいと思う。私はわからないのでちんぷんかんぷん。ただ、3人の若者が仲良く進めている点では評価ができる。ジャズ好きはかじりついてでも聴いているのだろう。
- ・みんなに向けて、というものばかり求めるのも違うかなと。好みの局を選ぶこともよしとする考え方のなかで意見したい。いつも楽器の演奏をしていたり、楽器を通して関わっている仲間同士であるという人たちの会話は、素人が聴くチャンスがない。それを通して、メジャーでないミュージシャンでも、その人の良さについてこんな見方をしているんだななどと気付かされており、興味深く聞いている。Honey Sheeさんは歯切れがよく、人柄が伝わり、気持ち良くきかせてもらっている。ただ、誰にも共通することだが、演奏者や曲目の紹介は、とちらないでスムーズに言ってほしい。今日はおもしろくないな、今日はいいな、というときがあってもよくて、パーソナリティ自身でモニターをして次へつなげてもらえればいいと思う。
- ・複数の人が同時に話す番組はひと工夫必要と思う。強いて言えば、解説者、聞き手、笑いをとる、などチーム内での役割分担を明確にした方がよい。
- ・今日は二本とも好感もてる番組だった。せっかくコミュニティの番組なので、地元と関連づけると良いと思う。可児市にもブラジル人が多いので、たとえば Hora de Choro なら、地元のブラジル人にゲストに入ってもらい、今ブラジル人が可児で聞いているブラジル音楽を紹介してもらおう企画はどうか。そうすれば、ブラジル人リスナーのネットワークもできて、ららをサポートしてくれる人口が増えるのではと思った。ブルーリズムに関して、中学の吹奏楽人口は多いので、若い人たちにジャズに限らず音楽のきっかけづくりをするようなことを頭においておきながら、若い人たちに音楽の魅力を伝えつつやってもらえるといいと思う。

2. 通常番組について

通常放送番組について、自由意見を募った。

- ・他のチャンネルと比べても、FMららが面白いと思うようになった。多彩なゲストを迎えていて、出演交渉など大変な苦労があるのではと思う。パーソナリティがゲストに心地よく話させる話術が身につけていると感じる。ゲストが気持ち良く話しているのが伝わる。

- 昼の番組のゲスト出演のコーナーで、巧みなパーソナリティが相手の話のひとつひとつ言葉を挟んでしまうのが気になった。リスナーがちゃんと聞きたいというところを尊重してほしい。相方が突っ込んでくれてはいたが、まずは相手にしゃべらせること、じっと聞くことを考えてほしい。まずはきちんと話させる、伝える役目がある、ということをお願いしてほしい。
- パーソナリティの知り合いがゲストに入っている場合、言葉が雑になるなど、くだけすぎた話し方が不快に感じることもある。

以上の意見が出され、全員承知した。